な差異は認められなかった．しかし，第3表および第4表より考察されるように，本地域において使用パーセントの大きい俚言は気象学的に根拠があると考えられるものが多く，また使用パーセントの小さい俚言は気象学的に根拠の乏しいと考えられるものが多いことがわかった．

## 5. あとがき

この研究をとおして，初期の目標であった本地域における天気俚言の使用の実態がわかった．また，本地域独得の俚言および特定地域にのみ使用されている俚言については，その数を多く得られなかったが，若干認めることができた．今後は未解析の個々の俚言の気象学的根拠，特に他地域であまり聞かれないと考えられる俚言について，機会をみて解析してゆきたい．

終りに，この研究をすすめるにあたって，懇切なご指導をいただき，また本稿の閲読をいただいた東京教育大学吉野正敏博士，茨城県立下館第一高等学校津田正志校長ならびに茨城県理科教育センター玉村幹雄副所長のご厚意に対し深く感謝の意を表します．

なお，本稿の資料の収集に終始ご協力くださった茨城県立麻生高等学校科学クラブ関係の諸氏に厚くお礼を申し上げます．

### 参考文献

1) 大後美保，1965：「ことわざの真実」三省堂．
2) 菊池繁雄，尾崎康一，山口享，宮園実康，1964：北九州における海難防止に関する天気俚言，天気，**11**，131～137 ならびに **11**，166～172．

# 理事会便り

## 第8回（13期）常任理事会議事録

日　時　昭和40年1月12日（火）17.00～20.00
場　所　気象庁観測部会議室
出席者　正野，北岡，桜庭，大田，今井，須田，岸保，増田，吉野，小平，神山，安藤（旧荒井）各理事（順序不同）
　　庶務関係（北岡，増田，安藤理事）
議　決

1. 40年5月の総会において集誌だけのA会員をB会員にふり返えることに定款を改正する予定であるが，この場合B会員にふり代った人は天気のバックナンバーが不揃になるので，1月号から天気をあわせとるように勧誘することを承認する．
2. 気象集誌に外国人からの寄稿が多いが，原則として会員以外の方には会員になることを勧誘する．
3. 昭和39年度土木学会賞の論文推選の依頼については当学会としては，土木方面の適当な論文がないので辞退する．
4. 国際雲物理会議のレセプションは，学術会議の諒解がえられれば，当学会としては学術会議と共催することに異議はない．
5. 会計事務の体制を確立するため，適当な候補者があれば，当学会の会計事務を依頼することを承認する．

# 春季講演会プログラム

**会期　3月26日（金）9時30分より**
**会場　東京都千代田区大手町　気象庁5階第1会議室**

1. 福岡義隆（教育大理）：都市郊外における地中温度分布　(15分)
2. 保柳睦美（都立大理）：歴史時代における西域の河川の水量の変動と土地の荒廃　(15分)
3. 磯野良徳・大河内芳雄（気象庁電計）：北半球4層傾圧モデルによる予報時間の延長　(20分)
4. 小林　望（教育大理）：日本付近の上層風の季節変化　(15分)
5. 陳　国彦（教育大理）：台湾の降水分布に関する総観気候学的研究—1961年の例について—　(20分)
6. 田宮兵衛（教育大理）：秋りんの気候学　(15分)
7. 関口　武とその協力者（教育大理）：東京の大雨の気候学　(15分)
8. 吉村　稔（教育大理）：航空写真による越後駒ケ岳周辺の雪の調査について　(15分)
9. 樫根　勇（教育大理）：中気候の立場からみた関東地方における下層大気の熱収支について　(30分)
10. 正野重方・田中　浩（東大理）：風向風速の変動法則と乱流拡散への応用　(30分)
11. 水越允治（三重大学芸）：四日市市とその周辺における地表付近の風向について　(15分)
12. 井上修一・関口　武（教育大理）：関東地方の海陸風の気候学　(15分)
13. 有住直介・鈴木　茂（気象庁高層）：気象ロケットMT—135による高層気象観測方法およびその観測結果について　(30分)